2013年度総会議事録

日　時：2013年5月16日（木）13時30分～15時30分
場　所：国立オリンピック記念青少年総合センター大ホール（東京都渋谷区）
参加者数：個人会員の会場出席者65名，総会参加票のうち有効票による出席者1,903名，合計1,968名．（通常会員現在総数3,355名（2013年4月9日現在））
決議の要件：社員総会の決議は，総社員の議決権の3分の1以上を有する社員が出席し，出席社員の議決権の過半数をもって行う．（定款第17条）

議　事

1．開会

経田理事より出席状況と決議の要件を満たしていることが報告され，総会の開会が宣言された．

2．議長選出

総会議長に高橋正明会員（東京大学大気海洋研究所）を選出した．

3．理事長挨拶

本大会の開催に尽力いただいた大会委員長を始めとする東京大学大気海洋研究所の会員，講演企画委員会の皆様にお礼申し上げる．各会場で熱のこもった講演と議論が行われていることを大変嬉しく思う．

気象学会は本年4月1日に公益社団法人に移行した．2006年6月2日の公益法人制度改革関連3法の公布，2008年12月1日の施行に伴い，新しい法人制度の下で移行準備を進め，昨年春の総会での審議を経て，8月7日に内閣府公益認定等委員会に認定申請を行った．12月26日の臨時総会での，同委員会より指摘された定款・細則の軽微な修正に関する承認を経て，公益社団法人への移行が認められた．関連して，2009年度には支部会計の本部会計への統合も行った．藤谷総合計画担当理事を始めとする公益法人移行検討ワーキンググループ，各支部，事務局の皆様の多大な尽力に深く感謝申し上げる．

公益社団法人化に伴って，学会の運営に関していくつかの大きな変更が生じる．新法人ではすべての個人会員が社員となり，円滑な学会運営のために会員が自覚を持って「社員」としての権利の行使と共に義務を果たしていただくことになる．今回，1900名を超える会員から，総会参加票の送付があったことは大変心強い．また，業務執行は，定数上限が20名となった理事会ですべて行うようになる．理事定数の減少に伴い，支部との連携強化を図るために支部長会議を新設し，またいくつかの委員会の整理統合も行った．

公益社団法人になっても，「気象学・大気科学等の研究を盛んにし，その進歩をはかり，国内及び国外の関係学協会等と協力して，学術及び科学技術，並びに文化の振興及び発展に寄与する」という学会の目的は変わらないが，公益目的事業は「不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するもの」である．会員には，優れた研究や業務の遂行と共に，その成果を社会に生かす活動にも積極的に取り組んでほしい．

学会の顕彰制度を，数年前から理事会で慎重に検討を進め，来年度から表彰を始める新しい賞を創設した．ひとつは，従来の山本・正野論文賞の主旨を継承発展させて，「気象学及び気象技術に関し貴重な研究をなした若手研究者」を顕彰する正野賞と，「基礎研究・応用技術開発を問わず優秀な論文を発表した新進の研究者・技術者」を顕彰する山本賞を設けた．もうひとつは，2011年9月に亡くなられた岸保勘三郎先生の奥様からの多額の寄付を契機に，先生のご功績を記念する「気象学及び気象技術の発展・向上を通して社会に多大なる貢献をなした者あるいは団体」を顕彰する岸保賞を設けた．

日本学術会議による「大型研究計画に関するマスタープラン」の策定に向けた研究計画の公募に対し，気象学会では「気候変動予測連携研究拠点」と「航空機観測による大気科学・気候システム研究の推進」の2件を提案した．現在，航空機観測に関する会員への意見募集を行っており，積極的なコメントをお願いする．

昨年の労働契約法の改正は，大学・研究機関にとっても，若手研究者にとっても大きな問題である．人材育成・男女共同参画委員会で各委員の所属機関の対応状況を集約し，研究・教育に関わる団体で力を合わせて関係省庁に理解を求める活動を考えている．

出版編集事業に関して，国際的な情報発信力の強化を目的とする新しい採択方針に従って，気象集誌への助成申請を行った結果，今後も助成が得られる

こととなった．佐藤正樹編集委員長を始めとする関係者の尽力に感謝申し上げる．

いくつか委員会活動を紹介する．学術委員会では，「日本の気象学の現状と展望」を近いうちに会員に公開し意見を募集する予定である．地球環境問題委員会ではIPCC第5次評価報告書の内容も取り込んだ，一般向けの地球温暖化に関する啓発書の準備を進めている．

総会参加票では今回も会員の皆様から貴重な意見を多数いただいた．理事会では真摯に受け止め，学会運営に生かして行きたい．

東京大学の近藤　豊会員が，「地球大気環境科学における顕著な功績」により紫綬褒章を受章された．また，北海道大学の坂崎貴俊会員が，「対流圏・成層圏における日変動現象の統一的解明」により日本学術振興会育志賞を受賞された．心よりのお祝いと共に，推薦に当たられた各賞候補者推薦委員会の皆様に深く感謝申し上げる．

最後に，春季大会の開催に当たって尽力いただいた皆様に改めてお礼を申し上げる．

4．表彰

(1) 日本気象学会賞

学会賞候補者推薦委員会委員長の余田理事が選定理由を説明し，新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された．受賞者と，受賞対象となった業績は以下の通り．

黒田　友二（気象研究所気候研究部）

向川　　均（京都大学防災研究所）

成層圏－対流圏結合系の変動と予測可能性に関する研究

竹村　俊彦（九州大学応用力学研究所）

エアロゾルの気候影響に関するモデル研究

(2) 藤原賞

藤原賞候補者推薦委員会委員長の中村健治理事が選定理由を説明し，新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された．受賞者と，受賞対象となった業績は以下の通り．

宮原三郎（九州大学名誉教授）

中層および超高層大気力学の発展につくした功績

近藤　豊（東京大学大学院理学系研究科）

地球大気環境科学に関わるオゾンとエアロゾル研究の推進

(3) 気象集誌論文賞及びSOLA論文賞

気象集誌編集委員会委員長の佐藤正樹理事が選定理由を説明した．受賞者と，受賞対象となった論文タイトルは以下の通り．

Chao WANG and Liguang WU

"Tropical Cyclone Intensity Change in the Western North Pacific: Downscaling from IPCC AR4 Experiments"

Kenshi HIBINO, Hirohiko ISHIKAWA, and Keiichi ISHIOKA

"Effect of a Capping Inversion on the Stability of an Ekman Boundary Layer"

Kenji YOSHIDA and Hisanori ITOH

"Indirect Effects of Tropical Cyclones on Heavy Rainfall Events in Kyushu, Japan, during the Baiu Season"

Tatsuya TERAO and Takeshi HORINOUCHI

"Low Cloud Modulation by Synoptic Waves over the Eastern Tropical Pacific"

Masaru INATSU, Yuya SATAKE, Masahide KIMOTO, and Natsuko YASUTOMI

"GCM Bias of the Western Pacific Summer Monsoon and Its Correction by Two-Way Nesting System"

SOLA編集委員会副委員長の三上理事が選定理由を説明した．受賞者と，受賞対象となった論文タイトルは以下の通り．

Toshiki Iwasaki and Yasushi Mochizuki

"Mass-Weighted Isentropic Zonal Mean Equatorward Flow in the Northern Hemispheric Winter"

5．2013年度総会議案審議

(1) 提案説明

議案1：2012年度事業報告

経田理事から，会員数の動向，機関誌等の刊行，大会及び研究会等の開催，研究業績の表彰，普及活動，支部活動，東日本大震災関連，公益社団法人への移行認定関連等の事業報告があった．

議案2：2012年度決算報告

徳廣理事から，収支計算書等に基づく決算報告があり，黒字決算であることが報告された．

議案3：2012年度監査報告

高谷監事から，帳簿類の管理，収支，会員数の動向等に関する監査結果が報告された．

2012年度の活動について，機関誌等の順調な刊行と研究業績の表彰，一般向けの教育普及活動の各地での活発な活動と部外機関との連携の強化について高い評価を受けた．一方，会員数の減少傾向が変わらないことから，将来の学会活動の低下につながることへの懸念が示され，長期的視野に立った対策の必要性が指摘された．

議案４－１：理事の解任

議案４－２：理事の選任

新野理事長から，徳廣理事の辞任届けに伴う解任と後任理事として平井雅之会員（気象庁）の選任について説明があった．

(2) 質疑応答

会員数の減少傾向に関して，退会理由や退会する方の年齢構成等は分析できているかという質問があった．新野理事長から，構成等調査できておらず，今後調べる必要があるとの説明があった．

学生が加入しない現状を踏まえた方策，例えば若手に対してのコンテンツを提供するなどを検討しているのかという質問があった．新野理事長から，会員向けの提供サービスについてはその充実を図っている米国気象学会を参考にして検討をすること，当面は電子版の気象研究ノートを会員向けに提供することを目指すことの説明があった．一方，加入する学生の少ない問題に関しては承知しているものの理事会でも対策に苦慮していることの説明と共に，大学に勤める会員からのアイデアをぜひ提案してほしいとの呼びかけがあった．

6．採択

議案１，２，３，４－１，４－２について，採決の結果，以下のように賛成多数で承認された．なお，有効総会参加票のうちの議長委任630票及び個人会員に委任１票は全て賛成．

議案１　　：賛成 1,933，反対 0，保留 1
議案２　　：賛成 1,932，反対 0，保留 2
議案３　　：賛成 1,933，反対 0，保留 1
議案４－１：賛成 1,933，反対 0，保留 1
議案４－２：賛成 1,933，反対 0，保留 1

7．2013年度総会報告事項

(1) 内容説明

報告１：2013年度事業計画

経田理事から，公益社団法人の下での2013年度の事業及び事業の実施体制の変更点，並びに従来の事業に加えて，電子版の気象研究ノートの公開，新たな賞の創設，Web 会議システムの活用を進めることが説明された．

報告２：2013年度収支予算

徳廣前理事から，漸減傾向にある受取会費の反映と，日中韓共催国際会議開催経費及び事務局移転経費の将来の支出を勘案して積み立てることが説明された．

報告３：公益社団法人日本気象学会細則の変更について

藤谷副理事長から，以下に示す項目に対処するため，公益社団法人発足後初めての理事会において，細則の関連規定の変更と追加を行ったことが報告された．

① 人材育成・男女共同参画委員会設置
② 岸保賞等の賞の新設・再編等
③ 公益活動の一層の推進並びに理事総数の減員に対応するための委員会の改廃
・広報委員会の廃止
・教育と普及委員会への部会（教育部会，普及・啓発）の設置
・用語検討委員会の天気編集委員会の部会への変更
④ その他

報告４：1993年以前に刊行した「気象研究ノート」に関する著作権の学会への委譲についてのお願い

中村　尚理事から，「気象研究ノート」に関する著作権の学会への委譲を進めるに当たり広報・周知に努めることが説明された．

(2) 質疑応答

Web 会議システムの活用に関して，同システムを通じた理事会及び委員会への参加を出席とみなすのかという質問があった．新野理事長から，公益社団法人移行後の理事会では出席とすること，同様に委員会でも出席扱いにして活用できるとの説明があった．

事業計画と予算案を審議事項にすべきとの意見が出された．藤谷副理事長から，新公益法人制度では，社員総会の法定決議事項には含まれていないこと，さらに，新制度では，事業計画並びに予算案について，各事業年度開始の日の前日（３月31日）までに作成することとなっており，現在の総会開催体制では，作成が不可能であること，従って多くの公益法人と同様に，事業計画並びに

予算案は理事会承認事項としていること等が説明された．このことを会員に周知するために，「天気」掲載の総会報告資料の中で解説するとの説明があった．

細則第８条にある寄稿に当たっての会員への便宜として具体的に何があるのかという質問があった．新野理事長から，便宜の内容は投稿規定として各編集委員会の判断で定めており，例えば「天気」では研究を本務としない会員の投稿料免除があるとの説明があった．

8．感謝状贈呈

新野理事長から，事務局に長年勤務し公益法人移行に多大な貢献をした萩原武士会員に感謝状が授与された．

9．議事録署名人の指名

議事録署名人に木本昌秀会員（東京大学大気海洋研究所）と高藪　縁会員（東京大学大気海洋研究所）を指名したところ，異議なく承認された．

10．議長解任

高橋議長により，総会の議事運営に関する出席者の協力に感謝する旨の挨拶があり，議長は解任された．

11．閉会

経田理事により総会の閉会が宣言された．

以上の議事録の通り相違ありません．

平成25年６月20日

総会議長　高　橋　正　明
出席者代表　木　本　昌　秀
出席者代表　高　藪　　縁